

(VESTA :Ver3.1.x、OS:Windows7、ブラウザ:Internet Explorer 9.0 の場合)

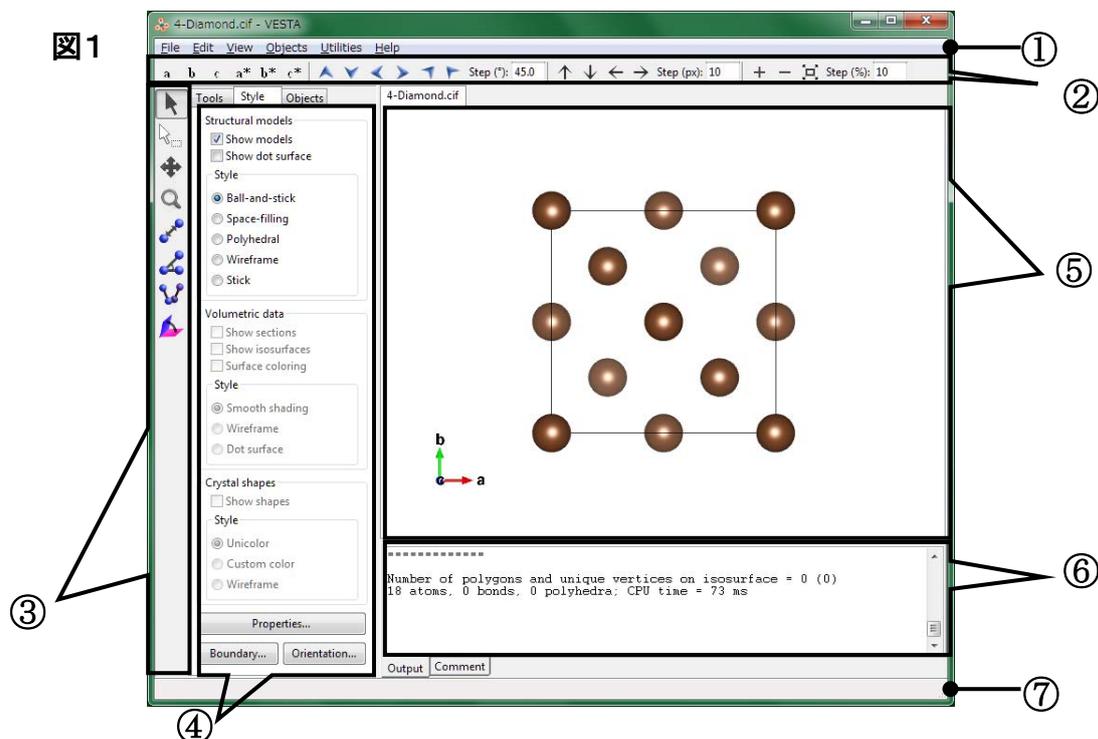
1) 4. 誕生石 4月 ダイヤモンドの鉱物名(和名)にある **CIF** アイコンを右クリックし、[対象をファイルに保存]を選ぶと、[名前を付けて保存]ウィンドウが開く。[ファイル名]が 4-Diamond、[ファイルの種類]が.cifドキュメントであることを確認し、[保存する場所](例えばデスクトップ)を選び、[保存]ボタンを押して、ダウンロード保存する。

2) VESTA を起動する。

3) メニューバーの[File]にある[Open]を選ぶと、[Open]ウィンドウが開く。ファイルの場所(例えばデスクトップ)を選び、上で保存した 4-Diamond.cif ファイルを開く。

グラフィックエリアに三次元結晶構造図が表示され、図の左下に(*a* 軸、*b* 軸、*c* 軸の向きを示す)結晶軸コンパスが現れる(図1参照)。

茶色の球:C 原子、実線:単位胞



- | | | |
|---|--------------|--------------------------------|
| ① | メニューバー | File、Edit 等のメニューが並んでいる |
| ② | 水平ツールバー | よく使われるツールが並んでいる |
| ③ | 垂直ツールバー | よく使われるツールが並んでいる(水平ツールバー以外) |
| ④ | サイドパネル | 操作に必要なツールボタンが並んでいる |
| ⑤ | グラフィックエリア | 三次元結晶構造図と結晶軸コンパスが表示される |
| ⑥ | テキストエリア | 行った操作で得られた情報がテキスト(文字、数字)で表示される |
| ⑦ | STATUS(状態)バー | 1行の文字で情報が表示される |

この状態で、グラフィックエリアにマウスポインタを置き、ドラッグすると、マウスの動きに合わせて三次元結晶構造図が回転する。

三次元結晶構造図を元(=初期)の向きに戻すには、水平ツールバーの[C]ボタン(*c*軸方向から眺める)を押す、あるいはサイドパネルの[Orientation]ボタンを押し、開いた[Orientation]ウィンドウの[OK]ボタンを押す。

以下の 4)~7) に、結晶構造ギャラリーの鉱物名(和名)をクリックすると表示される以下の結晶構造図(図2)を描くための VESTA の操作方法を示す。

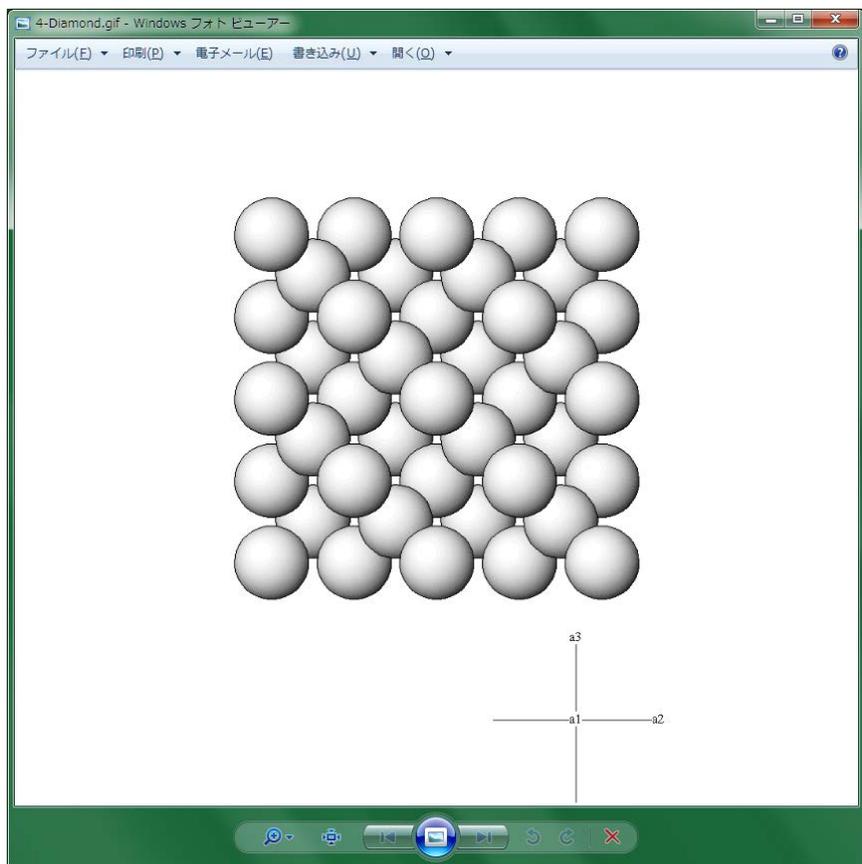


図2

4) 三次元結晶構造図の向きの変更

・サイドパネルの[Orientation]ボタンを押すと、[Orientation]ウィンドウが開く。

・[View direction]にある[Projection vector] (投影ベクトル)を、初期値の *c* 軸方向 ($u:0, v:0, w:1$) から *a* 軸方向 ($u:1, v:0, w:0$) に、[Upward vector] (上向きベクトル)を初期値の *b* 軸方向 ($h:0, k:1, l:0$) から *c* 軸方向 ($h:0, k:0, l:1$) に変更する(図3参照)。

数字を変更するには、変更したい数字の箇所(例えば、[Projection vector] (投影ベクトル) $u:$ [0]]のテキストボックス)をマウスで左クリックし、数字(例えば、0)を削除した後、新しい数字(例えば、1)をキーボード入力すれば良い。

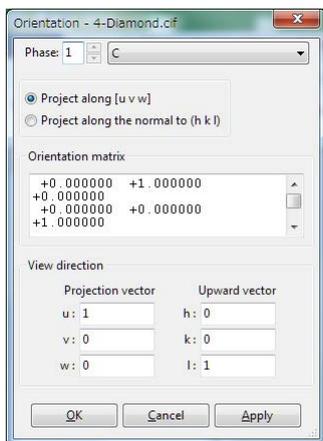


図3

・[Apply]ボタンを押すと三次元結晶構造図の向きが変化する。[OK]ボタンを押すと[Orientation]ウィンドウが閉じる(図4参照)。

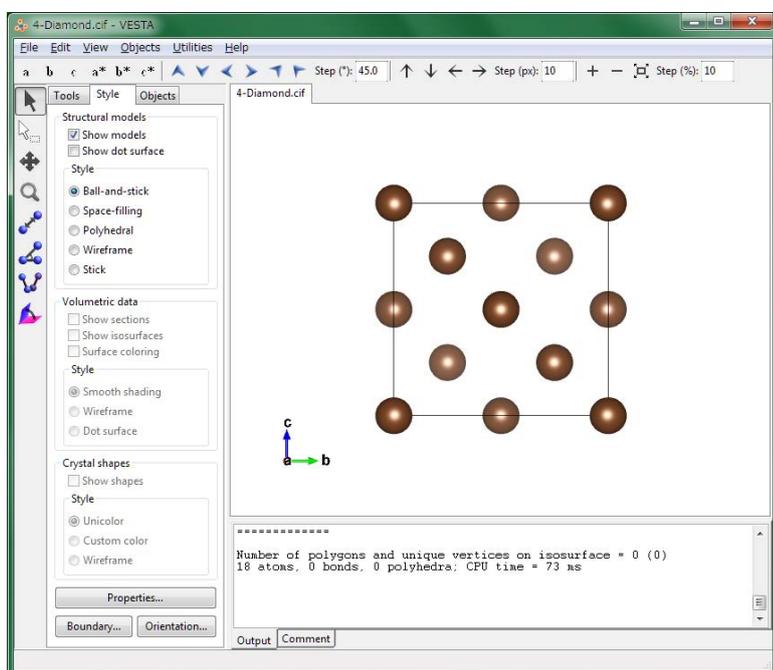


図4

ダイヤモンドの場合、図2の結晶構造図には単位胞が8個表示されているが、VESTAの初期設定では三次元結晶構造図の単位胞が1個しか表示されないため、次の5)で三次元結晶構造図の表示範囲を変更する。

5) 三次元結晶構造図の表示範囲の変更

VESTAの三次元結晶構造図の表示範囲(a 軸、 b 軸、 c 軸方向の表示範囲)は、初期設定では $0 \leq x \leq 1$ 、 $0 \leq y \leq 1$ 、 $0 \leq z \leq 1$ (分率座標表示)となっている。

・サイドパネルの[Boundary]ボタンを押すと、[Boundary]ウィンドウが開く。[Ranges of fractional coordinates](分率座標の範囲)を、以下の様に変更する(図5参照)。

$$x(\text{max}) = 1 \rightarrow 2$$

$$y(\text{max}) = 1 \rightarrow 2$$

$$z(\text{max}) = 1 \rightarrow 2$$

数字を変更するには、変更したい数字の箇所(例えば、 $x(\max)=[1 \quad]$ のテキストボックス)をマウスで左クリックし、数字(例えば、1)を削除した後、新しい数字(例えば、2)をキーボード入力すれば良い。

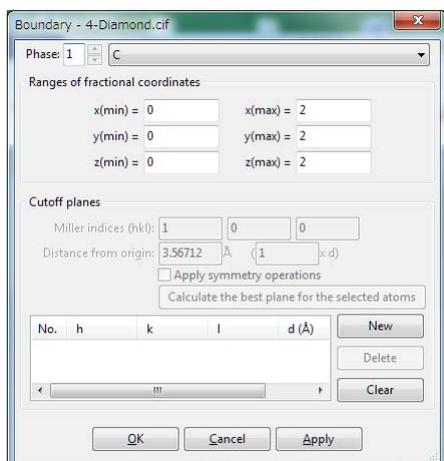


図5

・[Apply]ボタンを押すと表示される単位胞の数が1個から8個(a 軸、 b 軸、 c 軸方向にそれぞれ2個ずつ表示)に増える。[OK]ボタンを押すと[Boundary]ウィンドウが閉じる(図6参照)。

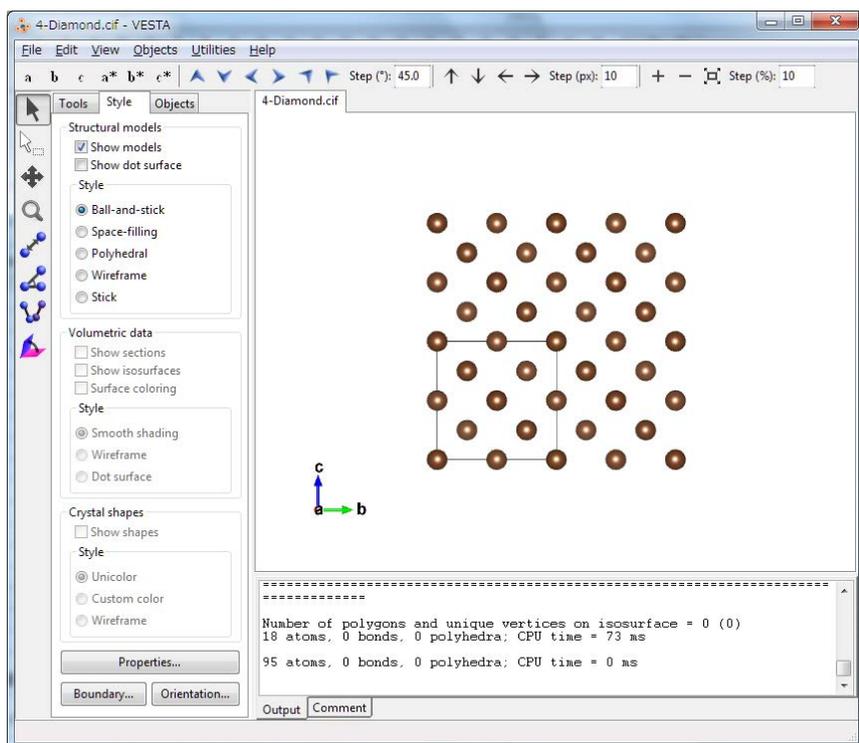


図6

6) 単位胞の表示の変更

- ・サイドパネルの[Properties]ボタンを押すと、[Properties]ウィンドウが開く。
- ・General タブ-[Unit cell]-[Line]の[All unit cells] (全単位胞)のラジオボタンをクリックすると、三次元結晶構造図の全ての単位胞(Unit cell) (8個)が実線で表示される(図7参照)。
- ・[OK]ボタンを押すと[Properties]ウィンドウが閉じる。

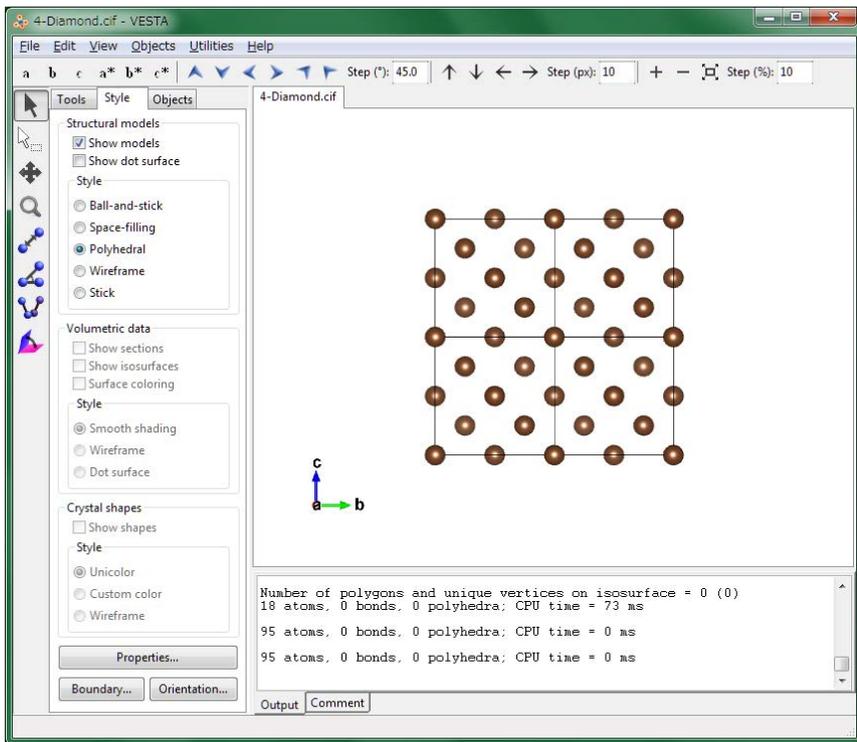


図7

7) 原子の大きさ、及び各原子の色の変更

- ・サイドパネルの[Properties]ボタンを押すと、[Properties]ウィンドウが開く。
- ・Atoms タブ-[Atom style]にある[Show as balls]の[Radii type]のプルダウンメニューにより、Ionic (イオン半径)を選ぶ。
- ・Atoms タブ-[Radius and color]の[Radius] (半径)に表示されている数字の箇所をマウスで左クリックし、数字を削除した後、新しい数字 (例えば、2) をキーボード入力すると、隣接する炭素 (C) 原子を接触した状態で見ることが出来る (図8参照)。[Color]の[]ボタンを押すと、[色の設定]ウィンドウが開く。[基本色]のカラーパレットから原子の色 (白色) を選び、[OK]ボタンを押すと、原子の色を変更することが出来る (図8、9参照)。
- ・[OK]ボタンを押すと[Properties]ウィンドウが閉じる。

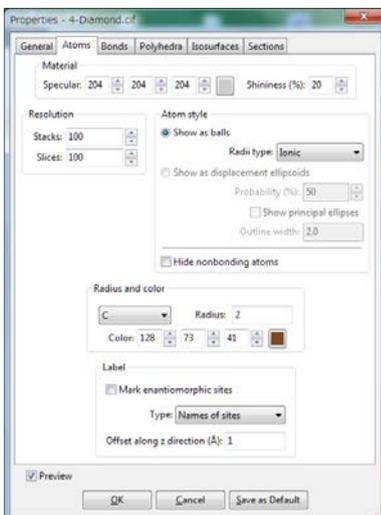


図8

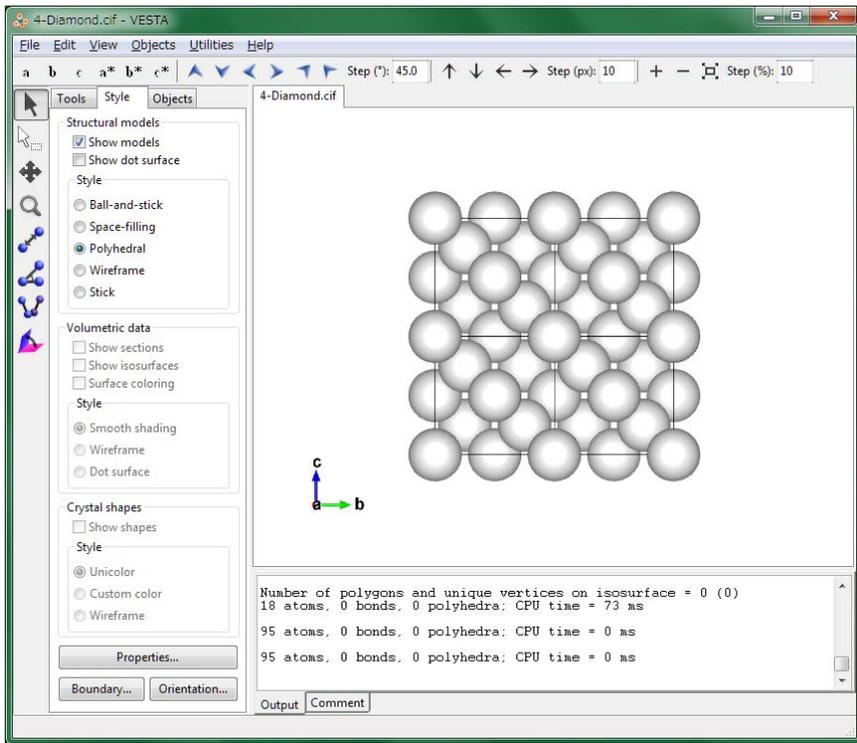


図9

8) 単位胞の表示の変更

- ・サイドパネルの[Properties]ボタンを押すと、[Properties]ウィンドウが開く。
- ・General タブ-[Unit cell]の[Do not show]のラジオボタンをクリックすると、三次元結晶構造図から単位胞(Unit cell)の実線表示が消える(図10参照)。
- ・[OK]ボタンを押すと[Properties]ウィンドウが閉じる。

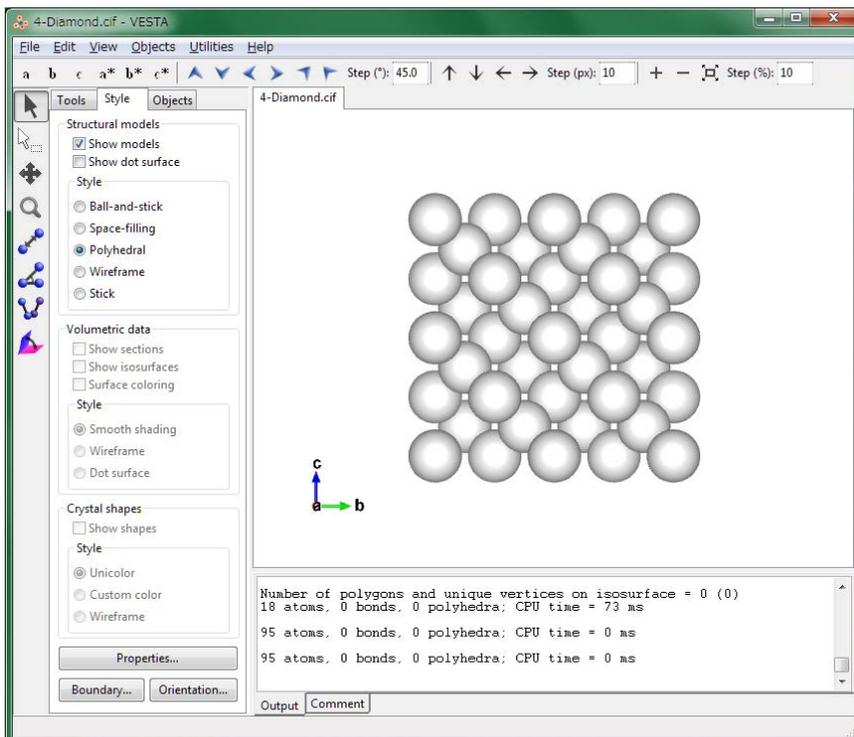


図10

以下の 9)~15) に、VESTA の他の操作方法の例を示す。

9) 三次元結晶構造図の表示範囲、並びに原子の大きさ・色の変更

・サイドパネルの[Boundary]ボタンを押すと、[Boundary]ウィンドウが開く。[Ranges of fractional coordinates] (分率座標の範囲)を以下の様に変更する(図11参照)。

x (max) = 2 → 1

y (max) = 2 → 1

z (max) = 2 → 1

数字を変更するには、変更したい数字の箇所(例えば、x (max) = [2]のテキストボックス)をマウスで左クリックし、数字(例えば、2)を削除した後、新しい数字(例えば、1)をキーボード入力すれば良い。

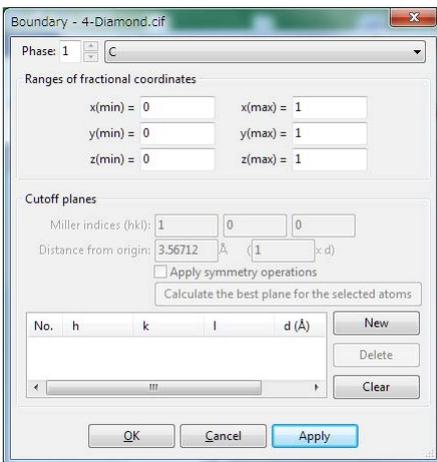


図11

・[Apply]ボタンを押すと表示される単位胞の数が8個から1個に減る。[OK]ボタンを押すと[Boundary]ウィンドウが閉じる(図12参照)。

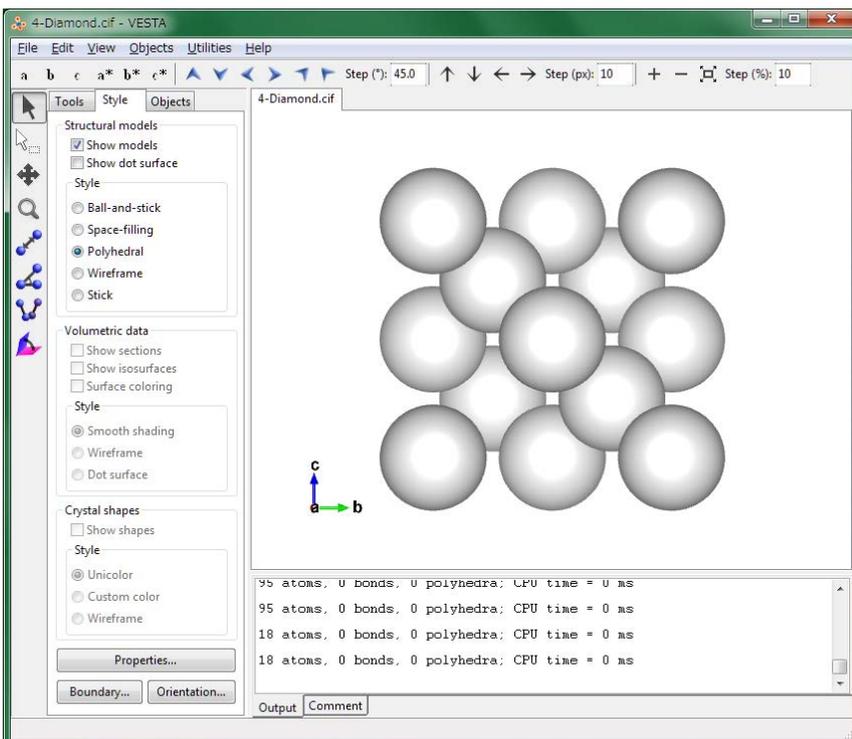


図12

・サイドパネルの[Properties]ボタンを押すと、[Properties]ウィンドウが開く。

・Atoms タブ-[Radius and color]の[Radius](半径)に表示されている数字の箇所をマウスで左クリックし、数字を削除した後、新しい数字(例えば、0.8)をキーボード入力すると、原子の大きさを変更することが出来る(図13参照)。
[Color]の[]ボタンを押すと、[色の設定]ウィンドウが開く。
[基本色]のカラーパレットから原子の色(例えば、茶色を選び、[OK]ボタンを押すと、原子の色を変更することが出来る(図13、14参照)。

・[OK]ボタンを押すと[Properties]ウィンドウが閉じる。

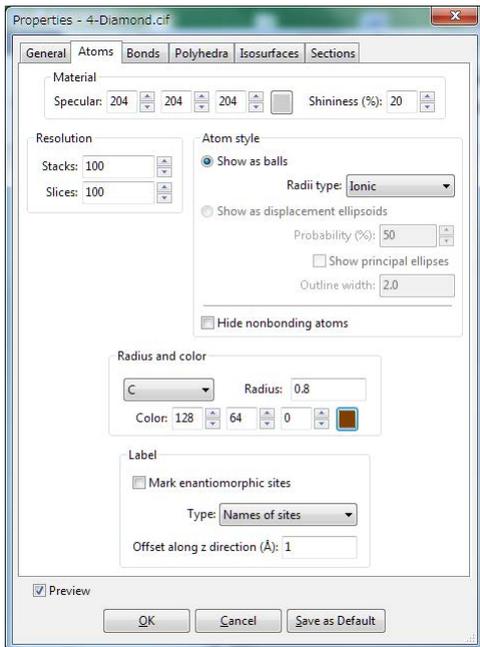


図13

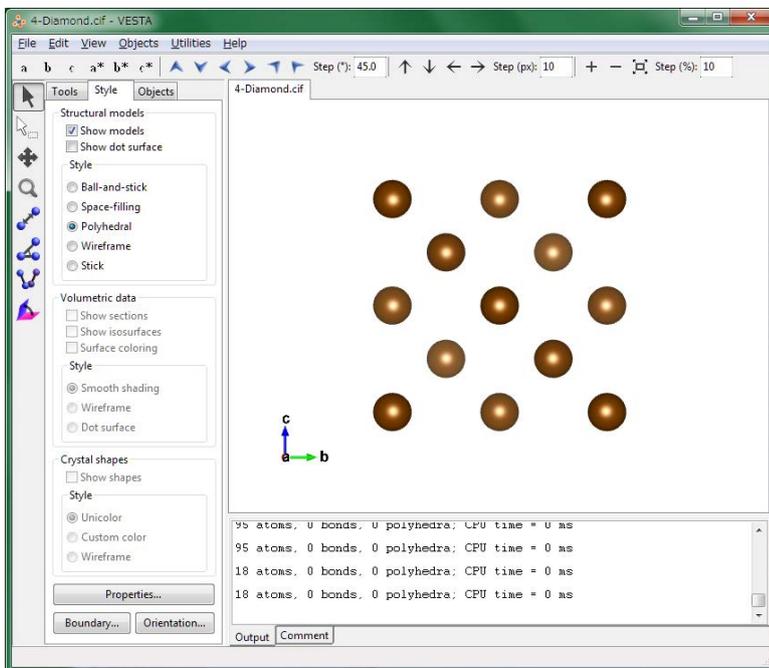


図14

10) 単位胞の表示の変更

・サイドパネルの[Properties]ボタンを押すと、[Properties]ウィンドウが開く。

・General タブ-[Unit cell] の [Single unit cell] (単位胞 1 個) のラジオボタンをクリックすると、三次元結晶構造図の単位胞 (Unit cell) 1 個が実線で表示される (図15参照)。

・[OK] ボタンを押すと [Properties] ウィンドウが閉じる。

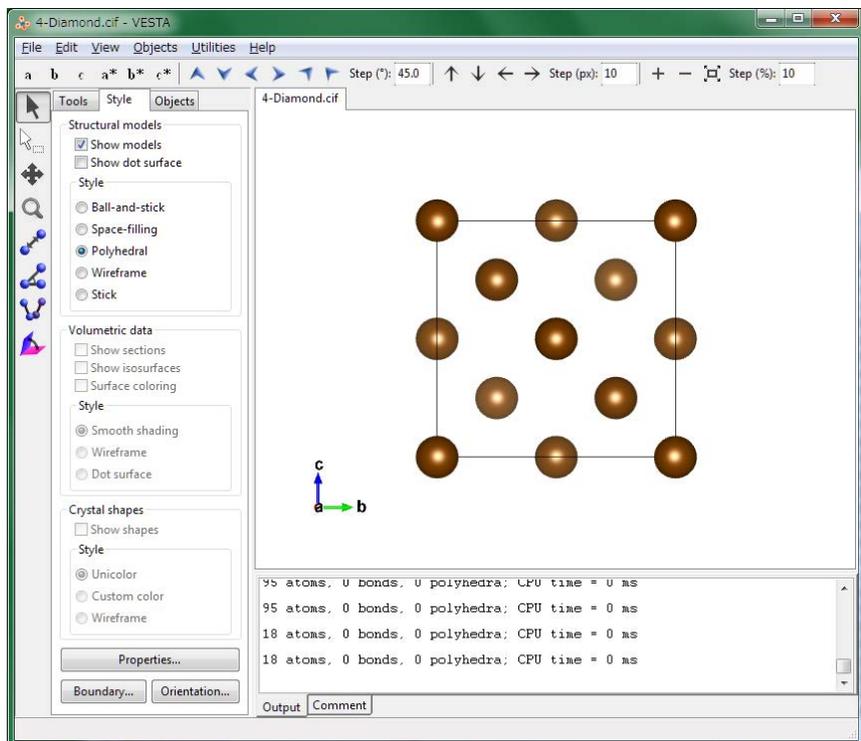


図15

11) 原子の結合の表示

・メニューバーの [Edit] にある [Bonds] を選ぶと、[Bonds] ウィンドウが開く。

・[Bonds] ウィンドウ右下の [New] ボタンを押す。

・[Search mode] の [Search A2 bonded to A1] (A1 に結合している A2 を探す) のラジオボタンが押されていることを確認する。

・[Boundary mode] の [Do not search atoms beyond the boundary] (境界を越えて原子を探さない) のラジオボタンが押されていることを確認する。

・[Show polyhedra] (多面体を表示する) のチェックボックスの [Y] を外す。

・結合を表示する 2 つの原子、C と C がプルダウンメニューにより A1:C、A2:C と選択されていることを確認する。

・結合の最短距離 (Min. length) 及び最長距離 (Max. length) を Min. length: 0、Max. length: 1.6 の様に、変更したい数字の箇所 (例えば、Max. length: [2.56] のテキストボックス) をマウスで左クリックし、数字 (例えば、2.5) を削除した後、新しい数字 (例えば、1.6) を Å (オングストローム) 単位でキーボード入力する。

・[Apply]ボタンを押すと、ウィンドウ内の表に、上記設定が入力されたことが(Atom 1:C、Atom 2:C、Min.(Å):0、Max.(Å):1.6、Bound.:1)の様に表示される(図16参照)。

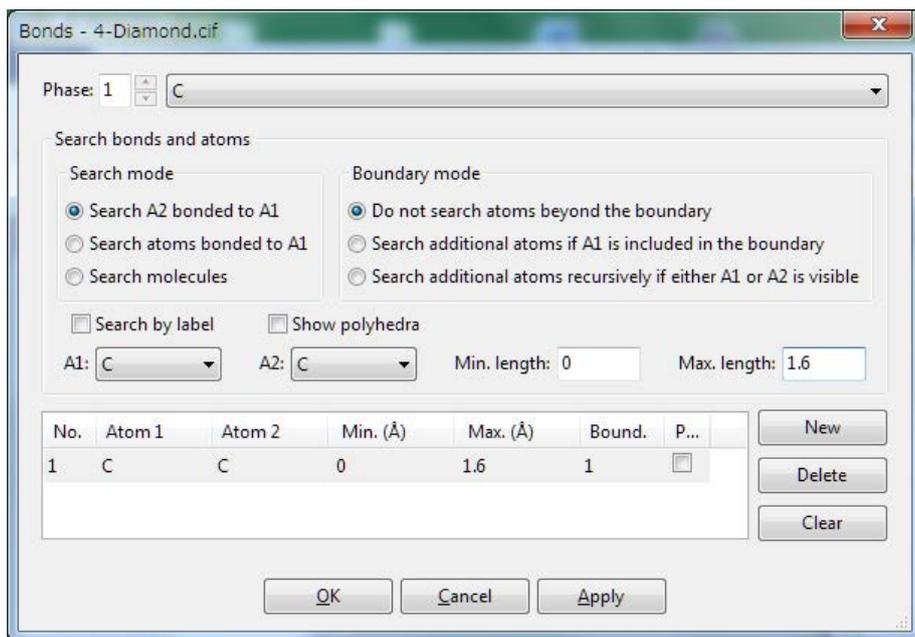


図16

設定を修正するには、表中の表示列をマウスでクリックし(表示列が青くなる)、必要な修正を行った上で[Apply]ボタンを押す。設定を削除するには、表中の表示列をマウスでクリックし(表示列が青くなる)、[Delete]ボタンを押す。

・[Apply]ボタンを押すと、グラフィックエリアの三次元結晶構造図に C-C の結合が灰色の棒で表示される。[OK]ボタンを押すと[Bonds]ウィンドウが閉じる(図17参照)。

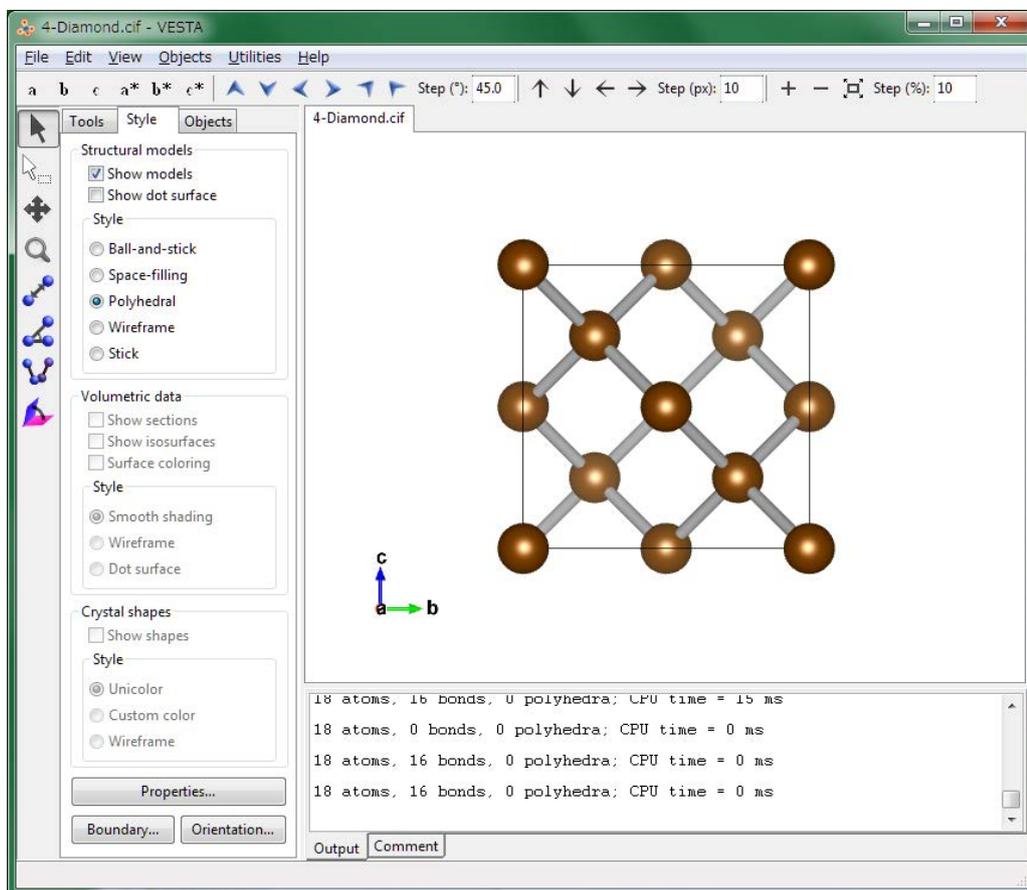


図17

10) 原子のラベルの表示

・サイドパネルの[Objects]タブをクリックする。

・[Site]の[L](ラベル)のところのチェックボックスをマウスでクリックし、[Y]を入れると、結晶構造物中に原子のラベル(元素記号:C)が表示される(図18参照)。

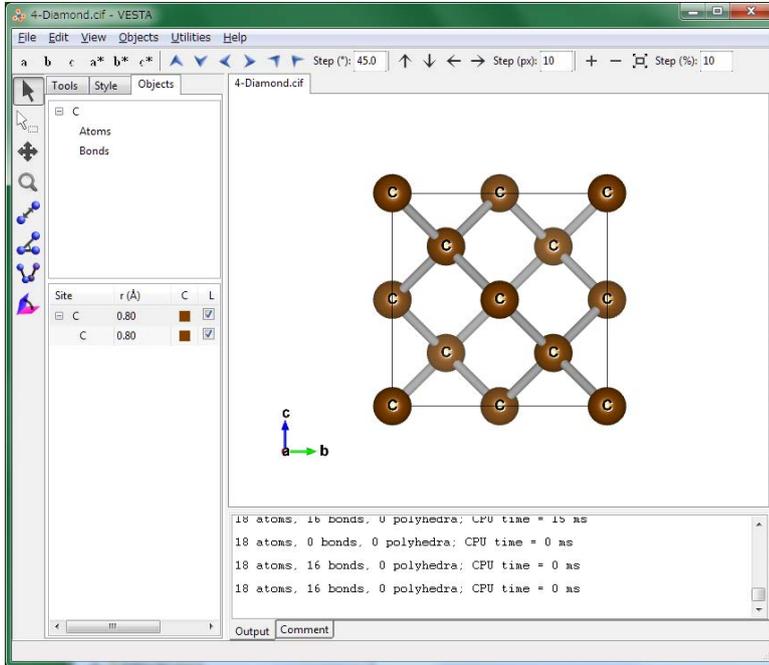


図18

11) 原子座標、結合距離、及び結合角の表示

・垂直ツールバーの上から2つ目の白抜矢印[] (選択)のボタンをクリックし、グラフィックエリア内の任意の1原子(例えば、下図のC原子1個)をクリックすると、原子に黄色の丸十字が表示され、テキストエリア、及びSTATUS(状態)バーに原子の分率座標(例:C(1.00000, 0.50000, 0.50000))が表示される(図19参照)。

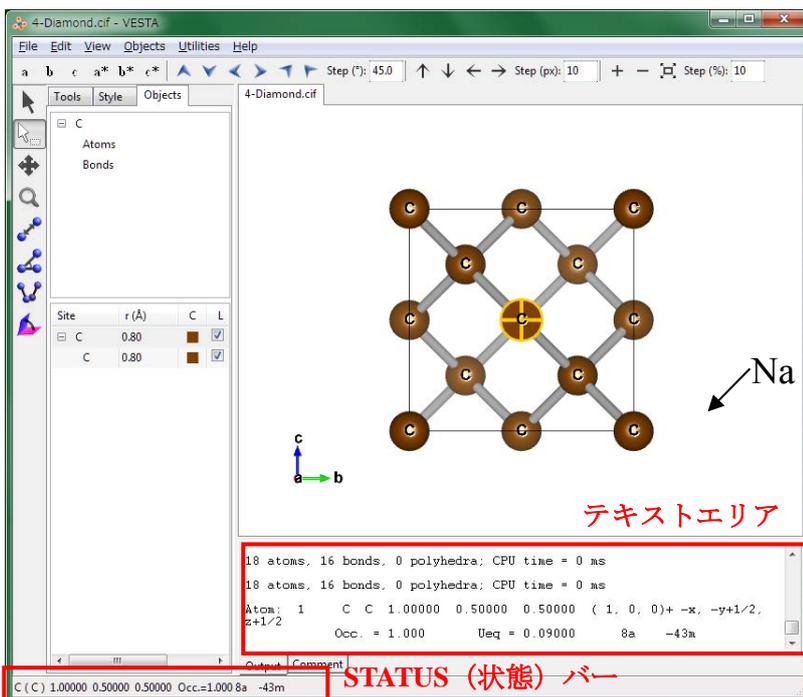


図19

・垂直ツールバーの上から5つ目の[距離]ボタンをクリックし、グラフィックエリア内の任意の2原子(例:下図の2個)をクリックすると、原子に黄色の丸十字が表示され、テキストエリアに2原子間の結合距離(例:2.52233(3) Å)及び2原子の分率座標(例:C(1.00000, 0.50000, 0.50000)、C(0.50000, 0.50000, 1.00000))が、STATUS(状態)バーに結合距離(C-C) = 2.52233(3) Å が表示される(図21参照)

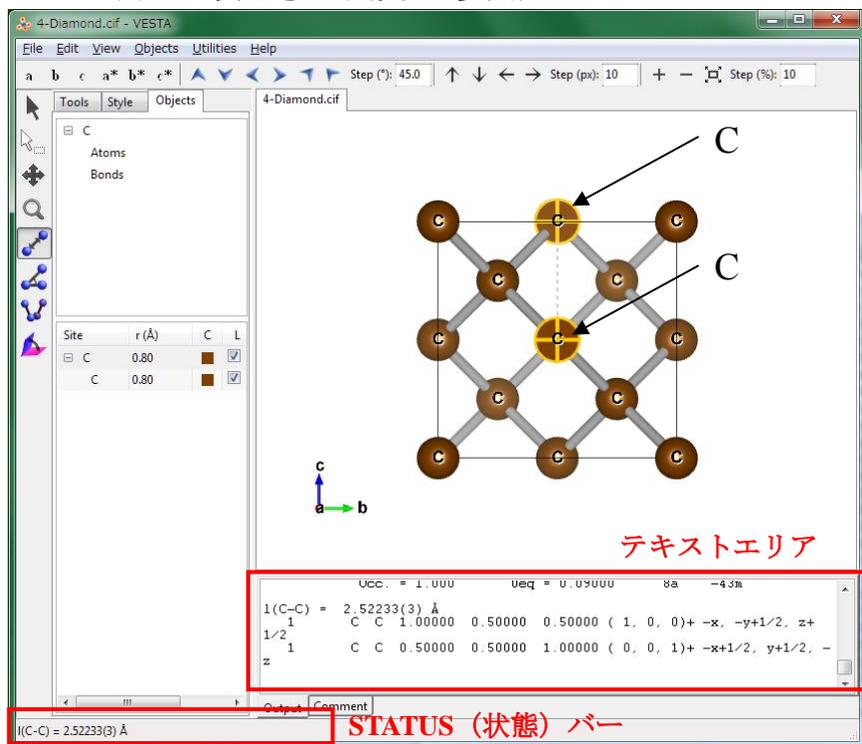


図21

・垂直ツールバーの上から6つ目の[角度]ボタンをクリックし、グラフィックエリア内の任意の3原子(例:下図の3個)を順番にクリックすると、原子に黄色の丸十字が表示され、原子間が点線につながれ、テキストエリアに3原子が構成する結合角(例: $\angle(C-C-C) = 50.4788(0)^\circ$)及び3原子の分率座標(例:C(0.25000, 0.25000, 0.25000)、C(1.00000, 0.50000, 0.50000)、C(0.25000, 0.75000, 0.75000))が、STATUS(状態)バーに結合角が表示される(図22参照)。

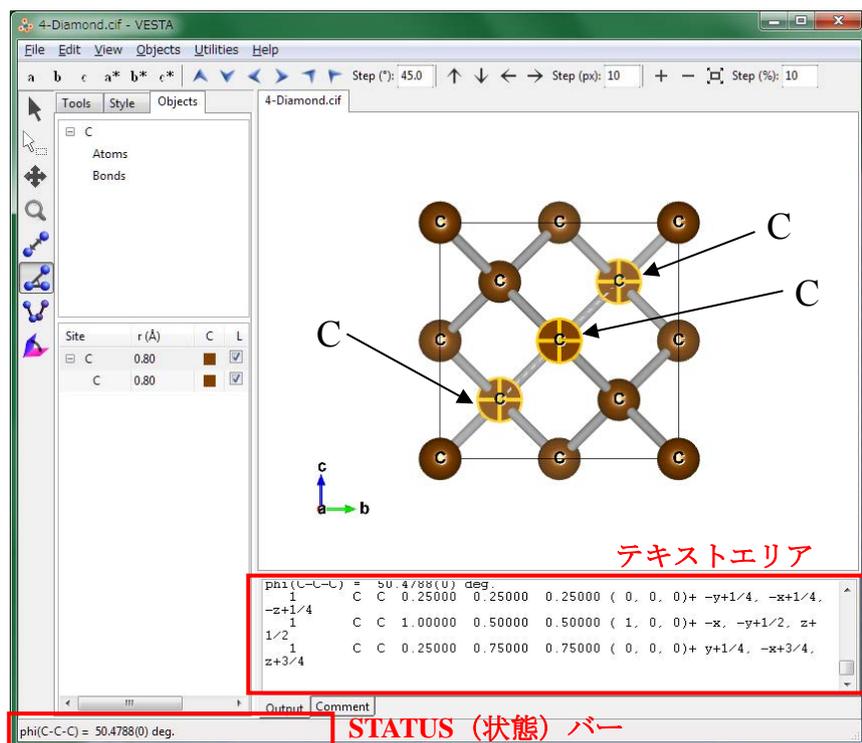


図22

12) 三次元結晶構造図の回転、拡大・縮小、及び並進

・垂直ツールバーの一番上の[Rotate]ボタンをクリックし、グラフィックエリアにマウスポインタを置き、ドラッグすると、マウスの動きに合わせて三次元結晶構造図が回転する。

・垂直ツールバーの上から4番目の[Magnify]ボタンをクリックし、グラフィックエリアにマウスポインタを置き、上下にドラッグすると、マウスの動きに合わせて三次元結晶構造図が拡大・縮小する。

・垂直ツールバーの上から3番目の[Translate]ボタンをクリックし、グラフィックエリアにマウスポインタを置き、ドラッグすると、マウスの動きに合わせて三次元結晶構造図が並進移動する。

13) 三次元結晶構造図詳細表示の変更方法

・サイドパネルの[Properties]ボタンを押すと、[Properties]ウィンドウが開く。

・General タブ-[Unit cell]の[Single unit cell]のラジオボタンをクリックすると、三次元結晶構造図に単位胞(Unit cell)の範囲を表示することが出来る。

・General タブ-[Unit cell]にある[Line style]中のラジオボタンの1つをクリックすることにより、単位胞を実線(Solid lines)、点線(Dotted lines)、破線(Dashed lines)のいずれかで表示することが出来る。線の太さは[Line width](線幅)に数字(例:2.0)をキーボード入力することで指定出来る。

・Atoms タブ-[Atom style]にある[Show as balls]の[Radii type]のプルダウンメニューにより、原子の大きさを原子半径(Atomic)、イオン半径(Ionic)、ファンデルワールス半径(van der Waals)のいずれかで表示することが出来る。

・Atoms タブ-[Radius and color]のプルダウンメニューにより原子を選び、[Radius](半径)に表示されている数字の箇所をマウスで左クリックし、数字を削除した後、新しい数字をキーボード入力すると、原子の大きさを任意に変更することが出来る。また、[Color]に数字をキーボード入力する(3つの数字は、左から順に赤(R)、緑(G)、青(B)に対応し、0~255の整数を取る)、あるいは、[Color]の[色パレット]ボタンを押すと、[色の設定]ウィンドウが開く。[基本色]のカラーパレットから任意の色を選び、[OK]ボタンを押すと、原子の色を任意に変更することが出来る。

・各タブの下部にある[OK]ボタンを押すと[Properties]ウィンドウが閉じる。

・メニューバーの[View]にある[Overall Appearance]を選び、[Overall Appearance]ウィンドウを開く。[Projection]の[Perspective]のラジオボタンをクリックし、[Viewpoint]をスライドすると三次元結晶構造図を見る視点を近距離(Near)から遠距離(Far)まで移動することが出来る。

・同ウィンドウで[Depth-cueing]の[Enable depth-cueing]のチェックボックスをクリックすると、三次元結晶構造図の奥行き方向に画像表示をぼかすことが出来る。

・下部にある[OK]ボタンを押すと[Overall Appearance]ウィンドウが閉じる。

14) 三次元結晶構造図の回転方法(詳細)

・サイドパネルの[Tools]タブをクリックする。[Rotation modes]の[Drag]のラジオボタンをクリックした後、[Orientation]から、[Free rotation]、[Around X axis]、[Around Y axis]、あるいは[Around Z axis]のいずれかを選ぶ。グラフィックエリア内にマウスポインタを置き、ドラッグすると、三次元結晶構造図を任意の方向、X軸の周り、Y軸の周り、あるいはZ軸の周り(*)に回転することが出来る。

・サイドパネルの[Tools]タブをクリックする。[Rotation modes]の[Animation]のラジオボタンをクリックすると、[Click]のプルダウンメニューが現れ、三次元結晶構造図が連続回転を始める。[Orientation]から、[Free rotation]、[Around X axis]、[Around Y axis]、あるいは[Around Z axis]のいずれかを選ぶと、任意の方向、X軸の周り、Y軸の周り、あるいはZ軸の周り(*)に連続回転をさせることが出来る。[Rotation modes]の中央部プルダウンメニューから[Push]を選ぶと、連続回転は止まる。

*)三次元結晶構造図の回転軸(X軸、Y軸、Z軸)の向きはグラフィックエリアの(左右、上下、画面に対して垂直)方向にそれぞれ対応し、結晶軸コンパス(*a*軸、*b*軸、*c*軸)の向きに対応しないことに注意。

以上